

市指定

絵画

大宮神社の三十六歌仙の絵馬

おおみやじんじやの
さんじゅうろっかせんのえま

絵
— 1

所在地

熊本市
県立美術館



紀貫之

小野小町

江戸時代初期の絵師、土佐光起（元和三年〜元禄四年（二六二七〜一六九二）の作と考えられています。古い絵馬ですが色あせず、保存状態も非常に良好です。現在は熊本県立美術館に保管されています。（児玉）

市指定

絵画

鍋田八幡宮三十六歌仙の絵

なべたはちまんぐう
さんじゅうろっかせんのえ

絵
— 2

所在地

鍋田
博物館
地図

P.141 83



中務

伊勢

山部赤人

江戸時代中期（宝暦九（二七五九）年）に作られた絵馬で、鍋田八幡宮に奉納されたものです。狩野派の流れの絵師、田原十郎左衛門の作で、山部赤人や伊勢などの三十六人の歌仙の人物画と短歌が描かれています。（事務局）

市指定

彫刻

霊仙寺跡釈迦如来坐像

りょうぜじあとしやかによういざぞう

彫—1

所在地

久原

霊仙

地図

P.141 84



鎌倉期の作と伝わる、高さ三十八センチで、ヒノキ造りの坐像です。三玉の霊仙公民館の中に安置されています。霊仙寺は菊池則隆のりたかの創建によるもので、天正十五（一五八七）年に佐々成政ささなりまさの時に焼失したと伝えられています。

（森本）

市指定

彫刻

上保多田観世音菩薩坐像

うえほだたかんぜおんぼさつざぞう

彫—2

所在地

保多田

観音堂

地図

P.141 85



高さ四一・五センチで、ヒノキ材の木片を組み合わせて作られた観世音菩薩坐像です。眼は玉眼（水晶・珠玉・ガラスなどを細工してはめ込んだ眼）で全体は漆箔が施されていました。長い間、室町時代のものでされていたことが、平成二十五年（二〇一三）の保存修理の際、内部に墨書が見つかり、延宝二年（一六七四）の作であることが分かりました。

（轟木）



金比羅神社の中鳥居の先にあるお堂（凡導寺跡）に安置されています。享保十八（一七三二）年の作で、高さ四七・八センチ、銅造りの三尊像です。主仏は阿弥陀如来、左に観音菩薩、右に勢至菩薩の二体があります。凡導寺は、山鹿三十三観音めぐりの二十二番札所でもあります。

（森本）

市指定

彫刻

凡導寺跡善光寺式一光三尊立像

ばんどうじあとぜんこうしき
いつこうさんそんりゅうざう

彫 3

所在地

蒲生
凡導寺跡

地図

P.141 86



高さ一七〇センチのヒノキ寄木造の仏像です。行基によって作られたという伝承や、室町時代の作とも言われましたが、姿形から江戸期のもと考えられます。千福寺は京都南禅寺の末寺で、開基は分かっています。聖武天皇の神亀四（七二七）年八月十八日建立という説もあります。

（福本）

市指定

彫刻

千福寺跡千手観音立像

せんぷくじあと
せんじゅかんのんりゅうざう

彫 4

所在地

城
堂の原

地図

P.139 87



ヒノキ材の高さ四三センチの唐様（中国明代）の仏像で、江戸前期（寛文〜元禄（一七世紀後半））頃のものと思われます。腹部に裳を巻きつけ、紐を結び、しのぎ立つ眉、ヘラ耳が特徴です。坂東寺は山鹿三十三観音めぐりの二十六番札所になっています。（大墨）

市指定

彫刻

坂東寺跡聖観音坐像

ばんどうじあとしょうかんのんざそう

彫 | 5

所在地

鹿本町
原部

地図

P.140 88



江戸時代の文化年間（一八〇四〜一八一七年）、地元の名工であった甚三が、ある晩、竜に襲われる夢をヒントに彫り上げたといわれる飛竜の彫刻で、形相は人に迫るものがあります。「雲を呼ぶ竜」の伝説として、語り継がれています。お宮から抜け出さぬよう、天井に釘でしっかり打ちつけてあります。

（限部）

市指定

彫刻

下梶屋八竜宮の竜

しもかじやはちりゅうぐうのりゅう

彫 | 6

所在地

鹿本町
下梶屋

地図

P.140 89

市指定

彫刻

泉福寺跡毘沙門天像及び
聖歡喜天像

せんぷくじあとしやもんでんぞう
おんくしやうかんきてんぞう

彫 7

所在地

鹿本町
庄

地図

P.140 90



聖歡喜天は秘仏のため見ることができません。

泉福寺は、平安時代に建立されたと伝えられている真言宗のお寺で、繁栄、荒廃を繰り返し、今に至っています。
二つの像は、泉福寺の本尊である毘沙門天と秘仏の聖歡喜天を指します。
(芹川)

市指定

彫刻

相良寺千手観音像

あいらいせんじゆかんのんぞう

彫 8

所在地

菊鹿町
相良 相良寺

地図

P.138 91



正しくは、「千手千眼観自在菩薩」といいます。膝張二・二尺、台座二・四×一・八尺、胎内銘から、永正十四（一五一七）年に作られたものと判明しています。頭部には十一面を表し、軀部には四〇手あってそれに二十五有界を乗じて千手を表します。木彫り坐像観音としては、日本最大のものです。
(事務局)

市指定

彫刻

菊池武光陣中矢除守本尊
不動明王きくちたけみつじんちゆうやよけまもり
ほんぞんぶどうみょうおう

彫 | 9

所在地

菊鹿町
相良 相良寺

地図

P.141 92



木板を彫った薄型の不動尊で、折りたたみ式の箱に貼り付けてあります。中心に不動明王、左右に二童子を従える三尊形式になっています。

詳細は分かりませんが、菊池武光が出陣の際に携帯していたものと伝えられています。

(事務局)



市指定

彫刻

清潭寺十六羅漢

せいたんじじゅうろくらかん

彫 | 10

所在地

菊鹿町
上永野清潭寺

地図

P.140 93

中尊菩薩像(修行中の釈迦の姿)が主座を占め、それを中心に左右に各八体の十六羅漢像がほぼ完全な姿で並んでいます。中尊菩薩像の蓮台に「享保第九甲辰霜月十五日清潭中興沙門面山彫刻拜」の銘があります。

(竹下)



高さ一一五センチ、直径七〇センチの銅製の鐘です。銘文には、銅銭百貫文を以て鑄造したことや中興沙門懷義を筆頭とした製作関係者などが彫られ、正平十三（一三五八）年の銘で締めくくられています。（橋本）

市指定

工芸

日輪寺梵鐘

にちりんじばんしょう

工一

所在地

杉

日輪寺

地図

P.141

94



蒔絵長方盆



九曜紋純銀茶碗



銅製細川葵紋水差

細川家に仕えていた緒方家に代々伝わる工芸品です。室町時代のものでとされる松紋蓬菜鏡をはじめ、尾形光琳の蒔絵長方盆、九曜紋純銀茶碗、銅製細川葵紋水差、柳瀬南甫の掛軸など、貴重な品が所有されています。（宮崎）

市指定

工芸

緒方家工芸品

おがたけこうげいひん

工二

所在地

鹿本町

高橋

地図

P.140

95



青銅製で扁平円形の二板を合わせて作られています。室町時代後期の作で県下最大級の物です。外区の銘帯に陰刻が、内区の撞座には八葉の蓮華文があります。銘文には、天文十七（一五四八）年に東常陸介が子孫繁昌を願い寄進し、井上掃部助が制作したことが記されています。

（竹下）

市指定

工芸

相良寺鯨口

あいらじわにくち

工
—
3

所在地

菊鹿町
相良 相良寺

地図

P.138 96

市
工芸



一五〇〇年程前の中国六朝時代の青銅鏡で、限部親永が所有していたものと伝えられています。裏面に葡萄唐草と海獣（馬と海亀と麒麟を合成した中国古代の架空動物）の装飾をもつ円鏡です。

渡来の経路などは不明です。

（青木）

市指定

工芸

光厳寺海獣葡萄鏡

こうこんじかいじゅううぶとうきょう

工
—
4

所在地

菊鹿町
上永野 光厳寺

地図

P.140 97



しょうへい
正平年間（十四世紀後半）の延寿園吉の作とされ、曾我家（光敬寺）に代々伝わっているものです。曾我家は相模国（神奈川県）の住人でしたが、箱根竹の下で菊池千本槍によって勝利した菊池武重公に従い、家臣となったといわれています。肉厚の短刀のような姿です。
（青木）

市指定

工芸

光敬寺菊池千本槍
こうきようじきくちせんぼんやり

工
—
5

所在地

菊鹿町
上永野 光敬寺

地図

P.140 98



親永木像は、荒削りで容姿に威厳を感じさせます。底面に「為亡隈部但馬守親永公敬造木佛早離三塗天正十六年閏四月八日肥後国永野清潭寺常住」と墨書銘が書かれています。位牌は、全体が黒塗で、蓮台と台座部は金箔が押されています。表面には「釈空山隈部刑部介但馬守親永公霊位」と書かれています。
（竹下）

市指定

工芸

清潭寺隈部親永木像及び位牌
せいたんじくまべちかながもくぞう
およびいはい

工
—
6

所在地

菊鹿町
上永野 清潭寺

地図

P.140 99



安土桃山時代に作られた懸け鏡で、鳥居の透かしが施されています。反本地垂迹説（仏は神が化身したものであると考える説）が、この地方にも浸透していたことを示す資料です。製作年（天正十八（一五九〇）年）と作者（次右衛門）の銘があります。（限部）

市指定

工芸

中川八幡宮鳥居の透かしを
持つ懸け鏡
なかがわはちまんぐうとりいのすかし
をもつかけがみ

エー7

所在地

鹿本町
中川 川北
地図

P.140 100

工芸市
古文書市



新町絵図 大光寺部分

写真提供 山鹿市商工会

新町絵図（宝暦十三（一七六三年）、安永新町町屋細図、中村手永口上之覚（宝暦七（一七五七年）、中村手永御蔵納萬御手鑑（宝暦二（一七五二年）の四点があります。特に新町絵図は、幅七四^サ、長さ五八〇^サの紙に、当時の来民の町並みや家屋の構造、間口などが丁寧に描かれてあり、当時の町屋の実態を見ることが出来ます。（大墨）

市指定

古文書

大光寺文書

だいこうじもんじょ

文ー1

所在地

鹿本町
来民 大光寺

地図

P.140 101



市指定

古文書

御宇田氏家系図

みうたしかけいず

文—2

所在地

鹿本町

御宇田

地図

P.140 102

御宇田地方の領主であつた御宇田氏の系図です。初代光重が御宇田氏を名乗り、この地に居住するようになったのは、延長三（九二五）年とあり、それから六一代政久にいたる家譜が、横系図形式で書かれています。永正年間（一五〇四～二〇）に作成されたものと見られます。

（大壘）



市指定

古文書

山鹿湯町絵図

やまがゆまちえず

文—3

所在地

鍋田

博物館

地図

P.141 103

江戸時代中期頃、宝暦十三（一七六三）年に作成された絵図です。豊前街道筋を中心に、建物の間口や住人の氏名などが記されています。当時の湯町の町並みや、施設などが分かる貴重な史料です。

（事務局）



江戸時代中期(安永元(一七七二年)、山鹿湯町の山下^{じんざえもん}甚左右衛門親之^{ふしや}(風斜)が、山鹿郡内の歴史や伝承、自然などを記した郷土誌です。山鹿灯籠の起源や温泉のほか、史跡名勝なども紹介されています。(事務局)

市指定

古文書

鹿郡旧語伝記

かぐんきゅうじでんき

文—4

所在地

鍋田博物館

地図

P.141 104

市
古文書



明治四(一八七二)年に設けられた、前田学校で使われた教科書です。小学読書教本や大日本国^{くに}尽^{じん}読^{よみ}手本^{てほん}、手習集手本、諸文章集本など十四冊が残っています。前田学校は、上御宇田村前田(現在の鹿本中学校の南西)にあります。(大墨)

市指定

古文書

前田学校教科書

まだだがっこうきようかしよ

文—5

所在地

鹿本町
来民

地図

P.140 105



市指定

古文書

日輪寺制札

にちりんじせいざつ

文
—
6

所在地

杉
日輪寺
地図

P.141 106

慶長十三（一六〇八）年に掲げられた高札の制札です。

日輪寺の竹木の刈り取り、牛馬の進入、野火を放つことの禁止命令を、加藤清正の家臣岩崎源左衛門の名で発せられています。

（橋本）



市指定

古文書

清潭寺隈部親永初登山教訓書

せいたんじくまべちかなが
はつとごんきょうくんしよ

文
—
7

所在地

鍋田
博物館

地図

P.140 107

長さ二肘余りの巻物で、「右大体は、合戦の出立に異ならず。其故は如何とならば、初心の児童登山の時は、武士の戦に向うが如く。」で始まり、寺や山に勉強に行くことは、武士が戦場に行くのと同じであると、勉強や鍛錬に対する態度を教えています。

（竹下）



永祿二（一五五九）年五月、木野城主木野親政の死後、その所領をめぐって赤星親家道雲と隈部親永による合瀬川の合戦が始まりました。この書は道雲の大軍を合瀬川に迎え撃とうと館を出る時、親永の決意を示した墨跡です。
（青木）

市指定

古文書

光厳寺隈部親永出陣の書

こうごんじくまべちかなが
しゅつじんのしよ

文—8

所在地

菊鹿町

上永野 光厳寺

地図

P.140 108

市
古文書



菊池氏が滅亡し、国人割拠の時代、その筆頭となった隈部氏の歩みを語り伝える、音読文語体で書かれた伝記です。特に合瀬川合戦の部分は、よけ枕（横枕）の地名の起源となった赤星蔵人の戦死の様子が鮮やかに描写されています。
（青木）

市指定

古文書

光厳寺隈部物語

こうごんじくまべものがたり

文—9

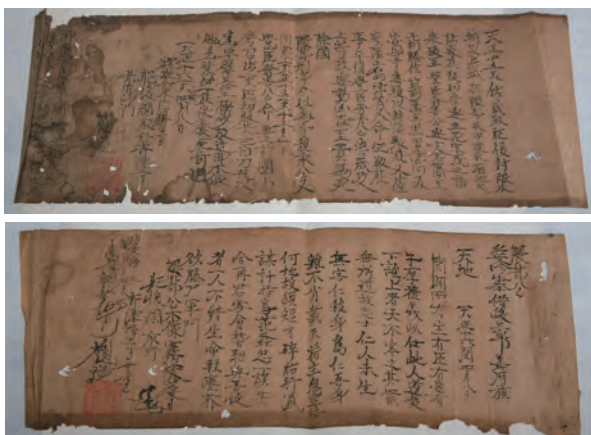
所在地

菊鹿町

上永野 光厳寺

地図

P.140 109



市指定

古文書

清潭寺限部親永書状

せいたんじくまべちかなが
しよじよう

文—12

所在地

菊鹿町
上永野清潭寺

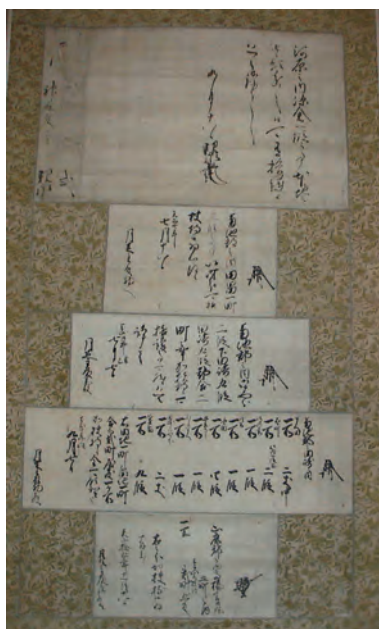
地図

P.140 112

市
古文書

二通の古文書は、詩文で書かれ、「限部公愛吟奉備後三郎嘉歴旗天地」と親永が自刃に至る経過が書いてあります。備後三郎は、児島高徳という南北朝時代の武将のことで、清潭寺常住沙門観境の署名と押印があります。

(竹下)



市指定

古文書

西得寺文書

さいとくじもんじよ

文—13

所在地

菊鹿町
長西得寺

地図

P.140 113

天正年間（一六世紀後半）のもので、限部親永が、家臣の月足主殿助へ宛てた書状などです。限部親永知行預ケ状・某宛行状・某宛行状・某宛行坪付・某宛行坪付の五通の文書が一軸に表装されています。

(竹下)

市指定

古文書

多田隈家文書

ただくまけもんじょ

文
14

所在地

熊本市
県立図書館

昭和二十年代、大雨による崖崩れの被害に遭い、約二千点の古文書が失われましたが、五千点弱の文書が回収されました。

多田隈家は、江戸時代の惣庄屋として、荒尾、深川（菊池市）、南関、沼山津（熊本市）、坂下村（南関）を回り、最後に中富へやって来ました。各地には現在も多田隈姓が残っていることから、惣庄屋として多大の影響を与えたことが伺えます。現在は熊本県立図書館で保管されています。

（多田隈）

市指定

考古資料

鹿本商工高校出土銅矛

かもとしょうこうこうしゅつちゆぼう

考
1

所在地

鍋田
博物館
地図

P.141 114



今から約一九〇〇年前（弥生時代後期）に使われた青銅製の祭器で、武器の矛を象ったものです。当時青銅製品は、大変貴重なものでした。全長は七八センチで、重さは一五〇〇グラムと重量感があります。昭和七年、鹿本中学校（現鹿本商工高校）校内で作業中に発見されました。

（事務局）



古墳時代終わりのころ（今から約一四〇〇年前）に造られた古墳の石室です。大きな石を組み合わせて部屋を造り、そこに遺体を安置しました。もとは大道小学校の東側にあったものが、石室だけ現在の場所に移され、復元されました。（事務局）

市指定

考古資料

方保田古墳石室

かとうだこふんせきしつ

考
—
2

所在地

方保田
大道小学校

地図

P.141 115

考古市



旧石器時代後期（今から約一万五千年前）のものと思われる槍先で、サヌカイトという石で作られています。長さ二五・五センチ、幅は四・〇センチです。昭和四十年、標高一八〇メートルの丘陵頂上のみかん畑を掘削中に発見されました。（事務局）

市指定

考古資料

柿原出土尖頭器

かきばるしゅつどせんとうき

考
—
3

所在地

鍋田
博物館

地図

P.141 116

市指定

考古資料

椎持南出土尖頭器・両刃礫器

しいもぢみなみしゅつど
せんとうき・りょうばれつき

考—4

所在地

鍋田
博物館

地図

P.141 (117)



今から約一万五
千年前のものと考
えられるサヌカイ
ト製の石器です。
椎持の鎌岳南麓
の畑で農作業中に
発見されました。
山鹿市の数少ない
旧石器時代資料の
一つです。
(事務局)

山鹿市の文化財施設のご案内 (その1)



山鹿市出土文化財管理センター

- 入館料 無料
- 地図 一三七頁 中央右側 2
- 休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始
- 開館時間 午前九時～午後五時
- ガイダンス施設も兼ねています。
- 方保田東原遺跡を中心に、山鹿市内で発掘された出土品（土器、石器）を収蔵しています。



山鹿市立博物館

- 入館料 大人二七〇円
子ども七〇円
- 地図 一三七頁 左上 20 ほか
- 休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始
- 開館時間 午前九時～午後五時
- 展示しています。
- 菊池川流域の考古・歴史・民俗資料を中心に約三千点の資料を収蔵、展示しています。